



平成 23 年 9 月
= 発行 =
秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田市山王中島町 1-1
TEL : 018-865-1171
FAX : 018-824-1799
E-mail : sgscen002@mail2.pref.akita.jp
編集担当：社会教育アドバイザー

電力不足が心配された夏も節電の努力で乗り切り、実りの秋を迎えました。田んぼは黄金色に輝き、米どころ秋田ならではの感動的な風景を作り出しています。新米・なし・くり・ぶどうなど秋の味覚が楽しみな季節になりました。

東日本大震災の復興支援として、コンサート・夏祭り・旅行・飲食会など様々な活動が展開されています。また、「なでしこジャパン」がオリンピック出場の切符を獲得し、元気を与えてくれました。様々な人々が、それぞれの立場で復興支援に取り組んでいます。テレビや新聞等で復興支援の報道にふれるたびに、「ありがとう」「ありがとう」と感謝の言葉を唱えています。

幼児期の保育・教育は、人間教育の土台！

～幼児期の保育・教育を真剣に学ぶ先生たち～



(8 月 5 日の研修の様子)

8 月 4 日～5 日の 2 日間、秋田県教育庁幼保推進課、生涯学習課主管の「保育技術協議会」が県生涯学習センターで開催されました。気温 33 度を超える猛暑の中、全県から 97 名の保育所・幼稚園の先生方が集まり、熱心に研修しました。

1 日目は、秋田大学教育文化学部附属特別支援学校副校長 新目基先生の講義「発達障害についての理解と幼児期の具体的な対応について」と、臨床心理士 橋本まり子先生の講義と演習「幼児理解～カウンセリングの技法を生かした幼児との関わり～」がありました。

2 日目の 8 月 5 日は、岩手県立大学社会福祉学部准教授 井上孝之先生の講義と演習「幼児理解からはじまる保育」でした。人と関わる楽しい遊びを通して、子どもの遊びを充実させる方法を学習しました。「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」が改訂され、保育所・幼稚園の先生方の研修が一段と重視されてきました。保育所・幼稚園関係者に限らず、社会全体が幼児期の保育・教育に関心を持ち、重要性を理解し応援していく必要があると思います。子どもたちは、日々の遊びや体験を通して、人間として生きていくための力を蓄えつづけています。

系へみ等
瓜のし
忌りき
や田は
吟に影
行その
終の色
へ名なり
て清り
掛し秋
けき夕
うひ焼
どとめ
どんめ
ぼれ

武藤 素魚



美の国カレッジ「ふるさとの山そして川」を取材して

～大人のふるさと学習&体験も、とっても大事！～

美の国カレッジのあきた学専門講座「ふるさとの山そして川」が、「あきたの山、その美しさ」「あきたの鳥、稀少猛禽類の生態」「あきたの温泉と地熱発電」「秋田の川ってキレイ？」「田沢湖・クニマス」「ふるさとの川に戻る魚」「河川や湖沼の水質汚濁と私たちの暮らし」「雄物川を遡ってみよう」の全8講座の日程で開催されました。

8月28日の最終講座は、船に乗って雄物川の自然や歴史、人の生活とのかかわりについて学習しました。青空の下、雄物川の流れるは悠々として、水面に川岸の風景が鏡のように映るほど穏やかでした。山から始まり周辺の生き物を育み、流域の人々の生活を潤す川の流れるの大切さと水との関わりについて、雄物川の下流の風景を眺めながら再確認しました。

講座を取材して、秋田の自然のすばらしさや自然と生活との密接な関係を多くの県民に実感してほしいと思いました。大人の確かな学びは、子どもたちにも継承される知的財産になることでしょう。



いよいよ乗船！



船の中から、川岸を眺める



救命クッションの使い方説明



川岸の風景に感動！



川面から橋を眺める



飲料水の吸水口

元気な秋田を子どもたちに引き継ぐために

「THE スペシャリスト」の講座受講をお勧めします（10月以降の講座の紹介）

- 10 / 8 (土) ちんどん屋になった！～元中学校教師の挑戦～
- 10 / 22 (土) 十文字道の駅の挑戦～地域の輝きを世界へ！～
- 11 / 5 (土) こんなお店がはやるんです！～秋田のカリスマ税理士が教える身近な経済学～
- 11 / 19 (土) 秋田ペロタクシープロジェクト～ペロタクシーで走る秋田の町～
- 11 / 26 (土) 自然体験・農業体験でにぎわいづくり～農山村集落の活性化をはかる～
(問い合わせ先 秋田県生涯学習センター 018-865-1171)